

平成21年度学校経営計画表

1 学校の現況

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-------|-----|----------|----|------|----|-------|-----|------------------|------|------|-------|-------|---|---|----|
| 学校番号 | 50 | 学校名 | 県立神栖高等学校 | | | | 課程 | 全日制 | | | 学校長名 | 荒野 一郎 | | | | |
| 教頭名 | 大野 孝之 | | | | | | | | 事務(室)長名 | 箕輪 猛 | | | | | | |
| 教職員数 | 教諭 | 23 | 養護助教諭 | 1 | 常勤講師 | 11 | 非常勤講師 | 4 | 実習教諭, 実習講師, 実習助手 | 1 | 事務職員 | 2 | 技術職員等 | 2 | 計 | 47 |
| 生徒数 | 小学科 | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | | 合計 | | | | | | |
| | | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | クラス数 | | | | |
| | 普通科 | 71 | 89 | 73 | 75 | 58 | 60 | | | 202 | 224 | 13 | | | | |

2 目指す学校像

| |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 「身を正し、場を清め、心を磨く」を共通目標として愛情を基盤とした教育活動を実践する学校 2 確かな学力と人間力の育成を図り、生徒一人一人の進路希望を実現することにより地域から信頼され選ばれる学校 3 情操と自尊感情の陶冶に努め次世代を担う心豊かな人間を育成する学校 4 特別活動を活性化し特色ある学校教育を推進し、生徒一人一人の個性と自立心の伸長を図る学校 |
|---|

3 現状分析と課題(数量的な分析を含む。)

| 項目 | 現状分析 | 課題 |
|------|--|---|
| 学習指導 | 生徒生活状況調査の結果によれば、授業が理解できるという生徒が、毎年5%程度増えているが、まだ約半数近くの生徒が「授業が理解できないことが多い」と答えている。また平日で64%、休日で67%の生徒が家庭学習をしていないと答えており家庭学習が習慣化されていない生徒が多いのが実態である。従って、生徒にとってわかりやすい授業を展開するため、また学習意欲を喚起し主体的な学習態度を育成するため更なる指導方法の工夫改善が急務である。 | 指導法の工夫・改善を図り、わかりやすい授業を目指すと共に、少人数指導や学校設定科目におけるチームティーチング等、きめ細かな指導を通して「学ぶ喜び」を味わわせることにより、学習意欲を喚起したい。更に主体的な学習習慣を育成するため、「発展的な学習」等の展開、資格取得の奨励、評価のあり方等を検討する必要がある。 |
| 進路指導 | 平成20年度は就職希望者の内定決定率は91%、進学希望者の決定率は4年制大学が100%、短大・専門学校が100%と近年にない成果を収めることができた。企業等への就職をしなかった者が11名いたが、皆それぞれの夢と計画を持ち実現へ向けて卒業していった。 | より進路希望達成率を高めるために、ガイダンス機能を強化し、就業体験、奉仕活動等の体験活動を更に充実させ、勤労観・職業観の育成を図る。 |
| 生徒指導 | 環境美化に努めた結果、学校全体がきれいになり、落ち着きを取り戻しつつある。指導連絡カードを用いて計画的・組織的に指導した結果、欠席や遅刻、服装・髪型などは以前に比べかなり改善されつつある。 | 家庭との連携を密にして基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚を図る必要がある。特に遅刻者には特別指導を行い、自ら律する態度を育成したい。また生徒の自尊意識を涵養し、中途退学者や問題行動指導対象生徒者数を減少させることが課題である。 |
| 特別活動 | 特活部を中心として、部活動や生徒会活動が活発に行われ、各大会での入賞を果たすなど実績も着実にあがっている。しかしながら、部活動加入率が約40%とやや低調であるので、前年度比5%増を目指したい。また、体育祭、スクールコンサート等を通じての感動体験を充実させたい。 | 部活動の加入率を高め活性化を図るとともに、生徒会活動を軸として、各種委員会活動等、生徒が主体的に参加する工夫が必要である。LHRや道徳の授業において資料集を活用し「人としての在り方生き方」について考察させる研修を深めなければならない。 |

4 中期的目標

- 1 基本的な生活習慣を確立し、情操と人間性を陶冶し教育活動全体を通して豊かな教育を推進する。
- 2 学習意欲を喚起し、主体的に学習する態度や習慣を育成するため、生徒の実態に即した教育課程を編成すると共に教職員の研修を充実させ指導方法の工夫改善を図る。
- 3 生徒の自主性、自立性の確立と人格の形成及び連帯感の涵養を目指し、HR・生徒会・部活動の活性化を図り学校行事の充実に努める。
- 4 地域・家庭・中学校との連携を強化し、それぞれの役割を明確にして協力体制を構築し、次代を担う地域の人材を共に育成していくため「開かれた学校づくり」を推進する。

5 本年度の重点目標

| 重点項目 | 重点目標 | 達成状況 |
|----------------------------------|--|------|
| 愛情を基盤とする教育活動の実践 (基本的な生活習慣の確立) | 遅刻指導を徹底し、遅刻者を平均10%以下を目指す。 登校指導や巡回指導に加え、指導記録カードを適切に用いて、頭髪・服装・挨拶・携帯電話の使用法、言葉遣い等のマナー指導を徹底する。 交通講話やLHR、交通安全委員会の活性化等を通して、交通安全やマナーに対する意識を啓発する。 | |
| 確かな学力と人間力の育成 (進路希望の実現) | 進路希望状況を定期的に把握し、適切な情報を与えることにより、自己実現を目指して自ら学ぼうとする意欲を育成し、進学・就職決定率を100%に近づける。 授業時間の確保に努め、チャイムと同時に授業開始・終了を徹底する。 学校設定科目でのチームティーチング(1クラス5人で指導)や少人数授業を効果的に機能させる。資格取得を奨励する。 授業公開や授業研究に取り組み、指導方法の工夫・改善を図る研修を深めるなど、教員の資質と指導力の向上に努める。 課題や小テストを計画的に与え、学習の習慣化を図り、授業や家庭学習に自ら取り組む姿勢を育成する。家庭学習時間0時間の生徒64%を50%以下にする。 | |
| 情操と自尊感情の陶冶 (豊かな心をはぐくむ教育の推進) | 「声かけ・面談・家庭訪問」を積極的に行い、生徒や保護者との密なコミュニケーションの構築に努め、転退学者数を20人以下を目指す。 LHRや「道徳」等の指導を通して「自己の在り方生き方」を考えさせる。 インターンシップと「ふれあい交流体験学習」を更に充実させ、望ましい勤労観や職業観を涵養する。 体育祭、スクールコンサート等、感動体験の実施と充実に努める。 スクールカウンセラー等を積極的に活用し「心の居場所」となる学校づくりに努める。 | |
| 特別活動の活性化と充実 (委員会活動・部活動等の活性化) | 部活動紹介を通して文化系・体育系の入部勧誘を進め、20年度より5%アップさせる。 LHRでホームルーム活動資料集等を活用して豊かな心の教育を充実させる。 生徒会が中心となり、各種委員会活動やボランティア活動を活性化する。 姉妹校等との交流を通して、国際理解教育の充実に努める。 学校行事等を積極的に公開し、地域に開かれた学校づくりを目指す。 | |